

60周年記念事業を振り返って

新たな取組

今回の60周年では、60年という節目の年を迎えるにあたり、近年の周年事業とは異なる新たなアプローチによる取組を行いました。

○札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年事業連携連絡会議

「札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年事業連携連絡会議」は、ポートランド市との姉妹都市提携60周年に向け、産学官民の様々な主体が60周年に実施する様々な事業を共有し便宜を図り合うことで、記念周年に関わる事業を一体的に実施し、その事業効果効率を高めるため、周年前年である平成30年（2018年）5月に設置したものです。

連携連絡会議では、札幌市が行う各種事業の他、各構成団体やオブザーバー団体が行う事業を共有したことで、60周年記念訪問時の北大北米オフィスの開所式や市立大学のPacific Northwest College of Art (PNCA) との交流（P.24）への米国総領事館による支援などの成果にもつながりました。

連携連絡会議構成団体

代 表：札幌市 町田副市長
 事務局長：札幌市 総務局 市長室長（事務局：国際部）
 構成団体：札幌市（国際部、広報部、文化部、スポーツ部、国際経済戦略室、観光・MICE 推進部、議会事務局）、札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会、札幌市芸術文化財団、札幌市体育協会、札幌商工会議所、札幌物産協会、札幌観光協会、札幌青年会議所、札幌市立大学、札幌市立高校・特別支援学校長会、さっぽろ青少年女性活動協会、北海道日米協会、ポートランド・札幌姉妹都市協会



第1回連携連絡会議

■ 連携連絡会議開催状況

開催日	会議名	主な議題
2018年5月14日	第1回連携連絡会議	・会議設置と今後のスケジュールについて ・ポートランド側の予定事業について
2018年5月14日	第1回実務者会議	・第1回連携連絡会議の内容について ・60周年事業について
2018年9月3日	第1回コア会議	・事前協議団のポートランド出張報告 ・60周年に向けた事業検討状況の共有 ・12月実施の日本庭園 CEO 招請等について
2018年11月21日	第2回実務者会議	・ブレ事業の実施について ・60周年時の記念事業（予定）について ・60周年記念訪問団について ・寄贈品交換について
2019年3月12日	第3回実務者会議	・60周年ブレ事業開催結果 ・60周年記念訪問団派遣事業 ・60周年記念事業認定制度概要
2019年8月1日	第4回実務者会議	・60周年記念訪問団訪問結果の報告 ・10月のポートランド訪問団受入について

○ブレ事業の実施

札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年事業連携連絡会議での活動を通じ、ポートランド市との姉妹都市提携 60 周年に向け、機運醸成を図るため周年前年の平成 30 年（2018 年）に 2 つのブレ事業が実施されました。

物産展「Sapporo Food Fair」

姉妹都市提携 60 周年に向け両市の文化と経済の交流を図るため、平成 30 年（2018 年）7 月に、連携連絡会議構成団体である札幌物産協会とポートランド・札幌姉妹都市協会の連携によりポートランド近郊の日系スーパー「宇和島屋」にて物産展「Sapporo Food Fair」が開催されました。

当該物産展は、60 周年本年である令和元年（2019 年）7 月にも開催され、この際はビーバートの店舗に加え、本部があるシアトル店でも開催されました。



物産展Sapporo Food Fair

記念フォーラムの開催

姉妹都市提携 60 周年に向けた機運醸成のため、平成 30 年（2018 年）12 月に札幌で記念フォーラムを開催しました。

当該イベントには、両市の姉妹都市提携を契機に造成され、現在ではポートランドでの日本文化の発信拠点ともなっているポートランド日本庭園 CEO の招へいによる基調講演を行った他、秋元市長をはじめとした関係者によるパネルディスカッションも実施しました。

また、日本庭園 CEO の来札がきっかけとなり、令和元年（2019 年）8 月にポートランド日本庭園で開催された札幌カルチャーフェスティバルの実現にもつながりました。



フォーラムの様子

■ 記念フォーラム「札幌・ポートランド～姉妹都市関係の未来」プログラム

(1) 札幌市職員研修成果発表「ポートランドの魅力と現在～まちづくりの成功とは」

(2) 基調講演「ポートランド日本庭園と姉妹都市」

ポートランド日本庭園 CEO スティーブン・D・ブルーム氏

(3) パネルディスカッション「札幌・ポートランド～姉妹都市関係の未来」

秋元克広 札幌市長

スティーブン・D・ブルーム ポートランド日本庭園 CEO

レイチェル・ブルネット-チェン 在札幌米国総領事館首席領事

枝川敏実 北海道新聞社編集局デジタル戦略担当部長（元同社ポートランド支局長）

【ファシリテーター】高橋 彩（北海道大学総長補佐・高等教育推進機構副機構長）

○ 札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年記念事業認定制度

札幌市では、ポートランド市との姉妹都市提携 60 周年に合わせて、ポートランドや札幌の文化、芸術、スポーツ、学術、教育、経済、観光などの分野において、その魅力を紹介し理解を深めるために開催する事業、互いの交流と相互理解を促進する事業、両市の連携の強化に資する事業を認定する「札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年記念事業制度」を創設し、合計 15 件の事業を認定しました。

この認定を受けた事業には、記念ロゴマークの使用が認められた他、これをモチーフにした缶バッチの提供やポートランド市や同市との交流を紹介するパネルの貸出も行われました。



記念ロゴマーク

<主な認定事業>

札幌食彩フェア

「札幌食彩フェア」は、北海道各地の食材を使用した料理を月替わりで提供するレストランフェアにおいて、札幌・ポートランド 60 周年をサブテーマに札幌産の食材を活用したポートランドを感じられる料理をホテルの館内レストランで提供したものです。

6 月に開催したフェアでは、ポートランドで有名なバラや個性的なドーナッツ、定番の中華料理などをモチーフにした料理の提供はもとより、フェアのチラシや館内でのパネル展示等を通じて両市の交流の歴史やポートランドの魅力を紹介しました。



食彩フェアチラシ



フェアで提供されたメニュー (ドーナッツ) の一例

60人ビールプロジェクト

「60人ビールプロジェクト」は、60人の有志で構成する委員会が札幌・ポートランド両市のクラフトビール醸造家や醸造所の協力のもと、60周年記念のコラボレーションビールを醸造・販売したものです。

このプロジェクトは、当該事業認定制度を活用し、市民有志の力で行われたもので、これまで培われた両市の姉妹都市交流を基盤に様々な主体が連携して事業が行われた60周年を象徴するプロジェクトの一つとなりました。

なお、プロジェクトで製作されたブルー（IPA）とオレンジ（WHEAT ALE）2種類の記念ビール缶には、それぞれ60周年の記念ロゴマークが付けられ、10月にポートランド市記念訪問団が来札した際に開催した記念レセプションの会場でも参加者に提供されました。



プロジェクトにより制作された
記念缶ビール

■ 認定事業一覧

	認定事業名	主催者
1	「央州日報」翻訳プロジェクト	オレゴン日系基金、札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会、ポートランド・札幌姉妹都市協会
2	やさしい英語で聞く 行ったつもりでポートランド	札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会
3	札幌市立高等学校・ポートランド市 高校生交流事業「帰国報告会」	札幌市立高等学校・特別支援学校校長会、札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会
4	ポートランド市民交流の旅	札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会
5	北海道大学ポートランドオフィス開所式 及びアンバサダー・パートナー委嘱式	国立大学法人北海道大学国際連携機構
6	札幌食彩フェア	株式会社ホテルオークラ札幌
7	60人ビールプロジェクト	札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年記念ビール委員会
8	姉妹校交流（宮の森小・リッチモンド小）	札幌市立宮の森小学校
9	朗読劇「青い目をしたお人形は」	NPO 法人ことばのひろば五億の鈴の音
10	さっぽろオクトーバーフェスト2019	さっぽろオータムフェスト実行委員会 （会場管理：（株）ウエス）
11	さっぽろ市民カレッジ 札幌の姉妹都市 ポートランドの魅力	札幌市生涯学習センター
12	ポートランド親善訪問団受入	札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会
13	米国ポートランドを知るセミナー	札幌国際プラザ、札幌姉妹都市協会、北海道大学
14	札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年 「乾杯」パーティ	札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年 「乾杯」パーティ実行委員会
15	ポートランド&新さっぽろミニフォーラム	新札幌駅周辺地区G・I街区 開発エリアマネジメント準備組織

札幌からポートランドへ

2019年（令和元年）6月、札幌市とポートランド市の姉妹都市提携60周年を祝うため、札幌から78名の親善訪問団がポートランドを訪れました。

6月5日のポートランド空港でのロイヤルロザリアンによる歓迎式に始まり、60周年の記念式典、グランドフローラルパレード、そして最終日のフェアウェルパーティまで、4日間を通してポートランドの方々の温かいおもてなしに触れ、交流を深めました。

60周年記念式典では、30年前に札幌市が寄贈した「平和の鐘」の移設除幕式も行われ、両市の市長が60年に渡る両市の市民の友情の軌跡を振り返り、さらなる友好の発展を誓いました。

○ ポートランドでの主な行事

2019年（令和元年）

6月5日（水）

- ポートランド国際空港での歓迎式
- 行政視察（グラント高校日本語イマージョン教育、カルミネーションブルワリー、イーストサイド地区リノベーション事業）

6月6日（木）

- ポートランド全姉妹都市レセプション・パーティ
- 60周年記念式典・レセプション

6月7日（金）

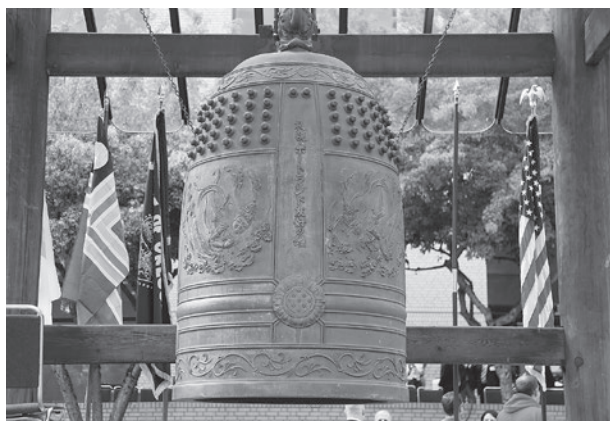
- ロイヤルロザリアン名誉ナイト授与式
- 北海道大学北米ポートランドオフィス開所式
- ポートランド日本庭園先住民展オープニングレセプション

6月8日（土）

- ローズ・フェスティバル／グランドフローラルパレード
- 日系レガシーセンター視察・央州日報翻訳ボランティア特別表彰式参加
- フェアウェルパーティ



ポートランド市長と



札幌平和の鐘



グランドフローラルパレード

○ 親善訪問団の紹介

訪問団は、市民訪問団を含む民間交流団体が26名、経済訪問団26名、大学訪問団9名、市議会訪問団11名、市長訪問団6名の5つの団からなり、総勢78名が姉妹都市提携60周年記念訪問団としてポートランドを訪れました。



ポートランド空港での歓迎式



グラント高校イマージョン教育視察



ポートランド全姉妹都市レセプション



60周年記念式典



ポートランド日本庭園視察



フェアウェルパーティ



姉妹都市提携 60 周年記念事業に携わって

ポートランド日本庭園

CEO スティーブ・D・ブルーム

札幌のみなさん、こんにちは。

私たちの姉妹都市関係は、オレゴン州ポートランド市にとって最も長いだけでなく、全米で見ても最も歴史あるものの一つです。今年 61 年目を迎えるこの特別な絆と関係は、経済連携を推進し、私たちの国際的な繋がりは、文化的そして経済的にも両市に恩恵をもたらし続けています。

昨年、姉妹都市提携 60 周年を記念するため、札幌市より約 80 名の記念訪問団をポートランドへお迎えしました。ポートランド日本庭園も市を挙げての記念行事の一環として、北海道と札幌に注目したテーマのアート展覧会や文化プログラムを実施しました。

その一つが、アメリカ北西部の先住民族と北海道のアイヌの人々の共通点に注目したアート展「Forest of Dreams」で、オープニングには秋元克広市長にもお立ち合いいただきました。本展は、これまでにない着眼点より両文化を紹介するという他に類を見ない展覧会となりました。

また、このたびの大きな行事の一つに、30 年前に札幌市からポートランド市へ寄贈された梵鐘の移設除幕式がありました。弊園は「Forest of Dreams」展のために作成されたパワーボードと呼ばれる木彫りのモニュメント 2 基を同除幕式に合わせてポートランド市へ贈呈し、梵鐘と並んで設置されました。両市の過去から現在、そして未来に思いを馳せるこのうえない機会となったと思います。秋元市長とポートランドのテッド・ウィーラー市長の両市長も、この素晴らしい友好関係を高く評価しました。

私たちの文化の共通点は、太平洋が両国を隔てるものではなく、繋ぐものであることを思い出させてくれます。私たちには相違点以上に似ている点がありますし、視点を共有することは相互理解と調和に不可欠であると思います。

共に築いてきた絆は、両市の友好関係を更に深め、豊かにしてくれました。私たちはこのかけがえのない文化交流関係、そして何よりも友情を将来に継続していくために尽力していきます。



パワーボードと梵鐘



両市長と筆者(右)の記念写真



北海道大学北米ポートランドオフィス開所式

前 北海道大学理事・副学長
長谷川 晃

ポートランドと北海道大学の関わりは、1972年に始まったポートランド州立大学との協定校関係にあります。半世紀近く続く交流は、教育学、経済学、法学での教員連携から始まり、今も学生交流が続いています。

北海道大学では、ポートランド、札幌両市の姉妹都市提携60周年記念事業に合わせて、2019年6月7日に、ポートランド州立大学内「北海道大学北米ポートランドオフィス」の開所式を開催しました。開所式には、秋元市長をはじめとする札幌市役所、札幌姉妹都市協会、ポートランド・札幌姉妹都市協会等からの参加を頂き、ポートランド州立大学プロボストのスーザン・ジェフォース博士、ロン・ウィクザック国際部長とともに、オフィス開設の覚書への署名を行いました。

このオフィスは、北米における北海道大学の戦略的・組織的な国際連携を推進すべく、米国機関との教職員・学生双方の人的交流支援を行い、北米の情報収集拠点としての機能を担うこととなります。また、このオフィスは横浜国立大学との共同運営によるもので、両大学のロゴを用いて製作したオフィプレートをオフィスに設置していますが、これは、一対一の連携以上の相乗的、効果的な活動を行いたいと考えている、両校の意識の表れです。

今般、本学は初めて記念訪問団に参加させて頂き、地域社会の一員としての大学であることや、産学官民で多角的に連携に関わり、長年の交流を更に広げていく可能性を、改めて強く感じました。北海道大学としても、次の提携65周年に向けて、両市の縁がいつそう深まるための一助となれればと考えております。



参加者集合写真



合意覚書と代表者(筆者は左)



姉妹都市ポートランドを訪れて

野口 良江
(市民訪問団参加者)

札幌市とポートランド市の姉妹都市提携 60 周年記念にあたり、秋元市長はじめ各関係機関団体総勢 80 名近い訪問団の一員として訪れたポートランドは、緑の豊かな街でした。新千歳空港での出発式、ポートランド空港では心のこもった歓迎式と本当に盛り沢山の公式行事が組まれており、私たちの宿泊ホテルから式典レセプション会場までは徒歩圏内の為市内を見学しながら移動。その中で私に関わる活動に参考になる箇所を見つけ驚きと関心を持ったのは、信号の四つ角ごとに設置された分別ゴミ収集ボックスです。ポートランド市民が街の景観を守る心意気だと思いながら会場へ。全てのレセプションでは多くのボランティアが活動され、手作りの心温まるおもてなしを受け、また感激です。

ホームビジットは、2 週間後札幌に短期交流で来る高校生のお宅に伺いました。4 人の高校生とその家族が集まり手作りパーティーでの歓迎。札幌での再会を約束し楽しく記念撮影。

グランドフローラルパレードでは飾りつけボランティアの体験、日頃手に出来ないほどのバラの花を惜しげもなく飾りました。多くの事を体験し、改めて今後の活路を見出せた訪問となり、この様に小さな市民間の交流が紡がれ 60 年継続できた姉妹都市、今後益々発展継続されますこと祈念いたします。

また、福迫会長はじめ札幌国際プラザの方々、そして現地通訳ボランティアの皆様、お世話になりました。訪問団で一緒にできた皆様に感謝。

後記 札幌でのホームビジットと日本文化体験も良き思い出です。



ホームビジット



フローラルパレード飾り付けボランティア



札幌からの訪問団受入に携わって

ポートランド・札幌姉妹都市協会
理事 名取 洋子 グールディ

今回の60周年記念行事の準備では、過去の周年行事よりも早くから両市間で緊密な話し合いが始められました。札幌市の国際部そして札幌国際プラザに比べると、ポートランド札幌姉妹都市協会は非常に小さな組織なのですが、それを補って他の多くの組織や企業からの惜しみないサポートを得て、たくさんのアイデアが検討・実現されていきました。

私がポートランドに来たのは1973年。留学先のルイスアンドクラーク大学に紹介されたホストファミリーのお父さんが姉妹都市協会の初代会長で、私も自動的に姉妹都市交流活動に親しむようになり、80年代半ばからは理事として主要な周年行事にも深く関わってきました。

綿密な準備を重ね、ついに6月が来て札幌からの訪問団を空港でお出迎えし、そこから数々の祝賀行事が盛り込まれた怒涛の4日間が始まりました。パレードでフロートの牽引車が故障するなど「サプライズ」はいくつかありましたが、訪問団の皆さんが快く対応してくださいましたし、晴れ男の秋元市長のおかげで晴天にも恵まれ、今まで最高の周年のお祝いが実現できました。

札幌の皆さんから、たくさんの「ありがとう」の言葉をいただきました。こちらこそ、ありがとうございました。そして秋元市長、予定以上の場でスピーチをして頂くことになってしまいましたが、一つひとつのスピーチに心がこもっていて、多くのポートランド市民の心に響きました。ありがとうございました。



空港の歓迎式典で通訳をする筆者



日系レガシーセンターでのプログラムで
感謝の花束を受け取る筆者

ポートランドから札幌へ

2019年（令和元年）10月に、テッド・ウィーラー市長を団長とする46名のポートランド親善訪問団が札幌を訪れました。

紅葉が深まる景色の中で市内に点在するポートランドに所縁のスポットやアイヌ文化を紹介する施設を訪れたほか、市長訪問団は、まちづくりや防災の関連施設も視察しました。60周年記念式典では、両市が贈った記念品が紹介されたほか、札幌市立高校とポートランド・グラント高校の派遣交流に係る協定書の締結が行われました。

両市の姉妹都市交流は互いの市民による草の根交流に支えられています。今回も日本文化体験やホームビジット等、様々なプログラムを通して市民ボランティアと訪問団の参加者が再会を喜ぶ姿がみられるなど、両市の結びつきを再確認する機会となりました。

■ 札幌での主な行事

	市長訪問団	訪問団
2019年（令和元年） 10月24日（木）	●ポートランド所縁の施設視察	
	●行政視察（まちづくり）	●市民防災センター視察 ●ホームビジット
10月25日（金）	●サッポロピリカコタン視察	
	●行政視察（防災、教育・避難施設）	●小樽視察
	●姉妹都市提携60周年記念式典・レセプション	
10月26日（土）	●サッポロビール博物館視察	
	●日本文化体験	
	●ポートランドセミナー	
		●フェアウェルパーティー



60周年の記念にポートランドから贈られた雨水浸透型花壇



ポートランド親善訪問団の代表と

訪問団の参加者は、テッド・ウィーラー市長をはじめとする市長訪問団、市民訪問団、ロイヤルロザリアン、ポートランド・札幌姉妹都市協会、ポートランド日本庭園、経済・学術関係者の方々など、総勢46名となりました。



ポートランド広場での記念撮影



市民防災センターでの消火体験



日本文化体験



姉妹都市提携60周年記念式典



米国ポートランドを知るセミナー



フェアウェルパーティ



日本のポートランドに出会える素敵なまち札幌

Essay

親の会会長
シヨーン・江草

札幌は未来です。

60年というのは、あらゆる意味で重要な節目です。ポートランド・札幌姉妹都市提携60周年にかかわることができたのは本当に特別なことでした。

ポートランドと札幌という、美しく、温かく、友好的な2つの国際都市は、昨年、60年にわたる友情を祝いましたが、次の60年はどうなっていくのでしょうか?その答えとして、双方の都市、市民、教育者によって生まれ、支援されている高校生の交流事業「札幌夏期研修 (SSI)」をご紹介します。

2011年から、両市は地球市民を育成するために高校生の交流を行っています。今までに200名以上の高校生がポートランドと札幌を結ぶ絆の一翼を担ってきました。ちょうど今年、ポートランドでは5年前に高校生として初めてポートランドを訪れた2名を教育インターンとして受け入れました。

幸運なことに私は両市における交流の結果をこの目で見てきました。親の会の共同会長として、札幌市立高校8校の素晴らしい先生方やこの取組のキーパートナーである札幌国際プラザのスタッフと出会うことができました。

最近では、60周年記念行事の一環として、秋元市長とウィーラー市長の立ち合いの下、共に協定書に署名しました。この交流がいかにして未来の市民を育てるかという重要性を行政が認識することは、次の60年の私たちの文化の相互理解、尊重、連携を確かなものにしていく上で欠かせません。ポートランドと札幌の未来を守っていくのは今日の若者だからです。

私たちは、札幌市との唯一無二のパートナーシップをこれからも大切にしていきます。過去を祝うことは、未来の基盤を築くことです。そしてSSIを通して、両市は世代を超えたつながりを強くしていくことを約束しているのです。

■ 俳句

さくらさく

あら、いっしょがんばれ

ばらもさく



記念式典での協定書調印式
(筆者は左から2人目)



グラント高校札幌夏期研修



ボウン夫妻をお迎えして

札幌国際プラザホームステイボランティア
浅野 政枝

昨年10月、ポートランド市から夕食にお招きしたキンバリーさんが居間に入るなり本棚へ行き、水色の絵本『ちいさいおうち』を手に「私も持っている」と懐かしそうに見た。静かな佇まいの60歳代のボウン夫妻が食卓に着くと、箸を上手に持ちほんの少しずつ召し上がった。夕食一回だけのホームビジットなので、我々が普段食べており、外国人にとってなるべく選り好みの少ない献立にした。

それは家庭菜園のサラダ、五目寿司、ジンジスカン、飲み物、フルーツなど。今までサラダを食べない人はほぼおらず、五目寿司はひょっとしてベジタリアンだったら…と想定、羊肉は北海道の定番で皇室行事でも用いられている。ところがご夫妻とも小食で、キンバリーさんは錦糸卵を一本取り、「これは何？」と口に運んだ。私は『それ一つだけでなく、ご飯と具と一緒にガバッと口に入れると美味しいですよ』と心の中で言った。

私も22年前の6月に、スウェーデンで夏の小芋料理とキッシュ、小麦煎餅を頂いたが、外国での初めての家庭料理はなぜか緊張し、それぞれ少量ずつしか喉を通らなかった。

人生百年時代が到来。今後は80歳代、90歳代のご夫婦をお迎えするかもしれない。次回からは来る前にメールで、「日本食で何がお好きですか？」と質問してから作ってあげたい。ポートランド市の街並みは札幌市と似ており、米国で最も暮らしやすい街という。パトカーのドアにも赤いバラが咲いている。永遠に姉妹都市であるよう祈願致します。



ホームステイ対面式

その他 60 周年関連事業

○『央州日報』翻訳プロジェクト

ポートランドの日系人の歴史を語りつごうと、ポートランドで「オレゴン日系レガシーセンター」の運営を行う「オレゴン日系基金」と札幌国際プラザによる共同プロジェクトです。

オレゴン日系基金は、約 100 年前にジャパントウンで発行されていた旧仮名遣いの日本語による日刊新聞“Oshu Nippo (央州日報)” (The Oregon News) を翻訳するプロジェクトを 2017 年秋に立ち上げました。

このプロジェクトでは、日系一世たちの暮らしや日米の情勢が反映されている貴重な資料を後世に残すことを目的に、2,777 部という膨大な資料の中から、最も興味深い、あるいはよく時代を反映している 10 部 (370 ページ) を選び、札幌とポートランドの約 150 名のボランティアが協力し、紙面の現代語訳と英訳の作業を行いました。生まれ変わった日本語・英語の央州日報は、オレゴン日系基金に収蔵され、インターネットでも公開されています。

オレゴン日系アメリカ人博物館

(Japanese American Museum of Oregon)

ホームページ：<http://www.oregonnikkei.org/oshunippo.htm>



○札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年記念事業 やさしい英語で聞く『行ったつもりでポートランド』

2019 年 2 月 9 日、札幌国際プラザにて「やさしい英語で聞く 行ったつもりでポートランド」を開催し、札幌市国際交流員リア・クラスさんとマージェリー・ワイドマンさんがやさしい英語を使いながら、ツアー形式でポートランドを案内しました。日本庭園やローズガーデンなどの観光名所や、地元の人々が楽しむランチやアイスクリームの店、郊外の大自然などの写真や動画がふんだんに使われた、臨場感たっぷりのセミナーとなりました。

参加者の皆さんからは「とてもわかりやすく、ポートランドのよさが伝わりました。まだアメリカに行ったことがないので、最初はぜひポートランドに行ってみたいです」など感想が寄せられました。



○ 札幌・ポートランド姉妹都市提携 60 周年記念事業

『米国・ポートランドを知るセミナー～わたしの街、わたしの暮らし～』

ポートランド親善訪問団の来札に合わせて、2019年10月26日、北海道大学学術交流会館において、「米国・ポートランドを知るセミナー～わたしの街、わたしの暮らし～」を開催しました。

当日は、ポートランドのテッド・ウィーラー市長にも開会のご挨拶をいただきました。

第一部は、(一社)クリエイティブシティラボ代表理事 山崎満広氏による基調講演「ポートランドがなぜ生き生きしているか」に続き、北海道大学3年生 盛藤舞さんと北海道教育大学2年生 佐々木珠希さんにポートランド滞在中の経験談をお話いただきました。

第二部は、ポートランド・札幌姉妹都市協会理事／オレゴン日系レガシーセンターボランティアであるグールドエイ・洋子氏、札幌・ポートランド姉妹都市提携60周年記念ビールプロジェクト代表大阪匡史氏、ポートランド在住経験のある在札幌米国総領事館 ロバート・ピケット領事、そして北海道大学ポートランドオフィス所長／北海道大学国際連携機構副機構長 川野辺創氏の4名をお迎えし、パネルディスカッション「街の人々が活躍するから楽しい、住みやすい」を行いました。ポートランド・札幌双方の市において地域の活動に尽力する方々のお話を聞きました。

多角的な視点による様々なお話を聞くことでポートランドの活力の源を探るセミナーとなりました。札幌のまちづくりに有益な意見も数多く聞かれ、今後活用されることが期待されます。



開会の挨拶を行うウィーラー市長



パネルディスカッションの様子